

ある日の三番瀬干潟

ゴールデンウィークの頃は船橋海浜公園の三番瀬では渡りをするシギやチドリが立ち寄りエネルギー補給をしますから撮影のチャンスです。いつ行けば良いか潮見表と睨めっこで作戦を練りました。

5月4日の予報は晴れ。若潮のため潮干狩場はお休み。日の出は4時46分で満潮から2時間経過しているので、干潟は3割方出ている筈。このタイミングを狙うには目覚ましを3時半にセットして前夜は早めに就寝。その結果が下の写真。その他にも色々撮りましたが8時半には干潮ピークになり、鳥は広い干潟に分散してしまっていて写し難いので早々に切り上げて、畑の草取りに戻らないといけません。私もこの時期は結構忙しいのです。



日の出前 このシーンを狙っていました



逆光に海面が染まる



メダイチドリ 朝日を浴びて赤みが強く発色



餌取場を変えて飛び回るハマシギの群れ



遠くにアジサシの群れを発見 これは予想外



チュウシャクシギの奥はダイサギ

佐倉市 坂本 文雄

気づかなかったこと

松戸市内の18か所の森を一般公開するオープンフォレストでは「あれもやりたい、これもやりたい」と催すものが膨らみ、いろいろ登場することになりました。隣の森では野うさぎの森の歌を子どもたちと合唱し、テンション幕上がりしていました。大ブランコやバトミントン、ハンモックに森から出た材を使って工作もあり、一日中楽しめる工夫が凝らされていました。

私たちの森では昨年、「絵本の読み聞かせ」の講師を呼んで、子どもたちに読み聞かせをしてみました。訪れる子どもたちが少なかったのですが、それなりの手ごたえを感じていました。「今年のオープンフォレストは何を？」と企画の相談をもちかけると、「大型絵本なら借りられます」との提案があり、やってみることにしました。

初日、子どもたちを心待ちしていたのですが、最初に訪れてくれたのは高齢者の皆さん方10人でお近くのマンションにお住まいの方々でした。いかに大型で目立つとはいえ絵本には目もくれませんでした。それではと、コナラが枯れ何本も伐倒したことや伐倒したばかりのイヌシデの説明をしました。イヌシデの縞模様が着物の柄「よろけ縞」になっているとの説を写真を交えて披露すると、着物好きな方が「男の人の着物柄にあるわね」と反応してくれ、その場が和みました。

ほどなくして、小学生が混じった集団がやってきました。3、4年生くらいですから絵本は卒業したのだろうと思っていると、森の会員が「読んでみようか！」誘います。ベンチに座った子どもたちは、それとなく、目が絵本に向かいました。「はらぺこあおむし」誰でも知っている絵本です。途中で飽きることなく、食い入るように夢中になっていきました。この小学生たち幼児のころには何度も読んでもらっているのに、飽きないで最後まで読んでもらったな。絵本の持つ魅力にちょっと感動しました。

絵本を読み聞かせているとよく起こるのが、「また、読んで」です。同じ絵本を何回も読まされます。「昨日読んだよ」といっても「また、読んで」の繰り返しです。子どもにとっては同じ本を読むことで「つぎにダイコン出てくるよ」、「いすになるよ」(⇒ベーコン忘れちゃだめよ)と、ストーリーを頭の中で繰り返すことによってストーリーを覚えてしまうらしいのです。学説によっては語彙力や表現力が身につくともいわれています。

また、描かれている絵から大人には見えていないものを発見することに驚いてしまいます。読んでいる大人は全く気が付かなかったのに「ろっくんがかくれているよ」(⇒14ひきのあさごはん)と発せられると「どれどれ、あっ、ホントだ」と感激するのです。

もうひとつ、絵本から学んだのは夕空の変化の仕方でした。夕焼けからだんだん紫色になって暗くなっていく様子を描いた作品(⇒14ひきのおつきみ)に出会い、「あっ、ホントだ」と感激しました。子どもに読んでいるのに、今まで気づかなかったことに気付くようになるという、大人のための別の効用が発見できるのも絵本の魅力なのかなと思うのです。

(松戸市 藤田 隆)



はらぺこあおむしに夢中